

イギリスのリオ五輪でのメダル獲得数が過去最多となる！

昨夜、リオ五輪の閉会式が行われ様々な思いの中、五輪旗が小池東京都知事に引き継がれる様子を見て4年後には東京五輪が開かれるが、全て上手くことを願う気持ちであった。

日本の後半のメダルラッシュは本当に凄かった。特に試合時間ギリギリで連続金メダルを獲得した女子レスリングはもう驚きで、どこかに居た勝利の女神が突然に降臨した思いだった。今回のメダル獲得数は41個（金12個、銀8個、銅21個）でロンドン五輪と比べて獲得数で3個、金メダルで5個上回ったのは成功裡だった。楽しみは銅メダルがアメリカ、中国に次いで21個で3位、東京五輪でこれらが金に代わることを勝手に思い馳せている。

さて、イギリスではリオ五輪の中継はBBCのみが4つのチャンネル（地デジ2ch、BS2ch）に、Online視聴で全競技を見ることが出来る様になっていたが、イギリス選手の活躍ぶりが主なので、日本人選手の活躍ぶりが見たい競技が思う様に見れなかったのが残念だった。それにしてもイギリス選手の活躍も日本を凌ぐ凄さでメダル数は67個（金27個、銀23個、銅17個）で、前回のロンドン五輪の65個（金29個、銀17個、銅19個）を獲得数では上回り、自国開催五輪のメダル獲得数を次の五輪で上回ったのはギネス記録ものであった。

また、国別のメダル獲得ランキングでイギリスが常勝のメダル大国アメリカに次いで2位となったのは驚きであった。これはイギリス五輪委員会が発表していたリオ五輪の目標メダル数は47個としていたので、イギリス国中が驚きであった。BBCも五輪メダルランクで2位と言うことは、イギリスは世界からOne of Super Power of Olympic Sport（五輪スポーツの強豪国の一つ）として認知されたわけで、問題はこの状態を続けて行くことが最も重要であると報じていた。

それではどうしてこの様な好成績を残すことができたのだろうか。それは下図の、最近の五輪でのメダル獲得のトップ10を見ると、1996年のアトランタ五輪でのイギリスのメダル獲得数は僅か15個（金1個、銀8個、銅6個）で、メダルランクでは36位の惨敗ぶりであった。

この様な状況では五輪強化費としての予算が思うように付かず、時のメイジャー首相は、国からの予算に加え、宝くじでの収益から五輪強化費をねん出する為の法整備し、1987年に文化・メディア・スポーツ省の財団法人として五輪を含むスポーツ強化専門の「UK Sport」を設立した。ここでは、長期展望で継続的に選手の育成の為、世界から一流のコーチ陣を

招聘、科学的なトレーニングができる施設を強化し、メダルが取れそうな競技種目を選択し、優先的に強化予算を付け、小中高生の中から素質のある、いわゆる将来のスポーツエリートを発掘し、育成して来たが結果、五輪毎に着実にメダル獲得数を増やして来た。特に自転車、陸上、体操、水泳、ボート、馬術で顕著な成果を挙げ、メダル獲得種目は前述を含めて19種目に達した。

イギリスの五輪に於ける獲得メダルの変遷 (1996年～2016年)

Atlanta 1996	G	S	B	Total
1 United States	44	32	25	101
2 Russia	26	21	16	63
3 Germany	20	18	27	65
4 China	16	22	12	50
5 France	15	7	15	37
6 Italy	13	10	12	35
7 Australia	9	9	23	41
8 Cuba	9	8	8	25
9 Ukraine	9	2	12	23
10 South Korea	7	15	5	27
36 Great Britain	1	8	6	15

Sydney 2000	G	S	B	Total
1 United States	37	24	32	93
2 Russia	32	28	29	89
3 China	28	16	14	58
4 Australia	16	25	17	58
5 Germany	13	17	26	56
6 France	13	14	11	38
7 Italy	13	8	13	34
8 Netherlands	12	9	4	25
9 Cuba	11	11	7	29
10 Great Britain	11	10	7	28

Athens 2004	G	S	B	Total
1 United States	36	39	26	101
2 China	32	17	14	63
3 Russia	28	26	36	90
4 Australia	17	16	17	50
5 Japan	16	9	12	37
6 Germany	13	16	20	49
7 France	11	9	13	33
8 Italy	10	11	11	32
9 South Korea	9	12	9	30
10 Great Britain	9	9	12	30

Beijing 2008	G	S	B	Total
1 China	51	21	28	100
2 United States	36	38	36	110
3 Russia	23	21	29	73
4 Great Britain	19	13	15	47
5 Germany	16	10	15	41
6 Australia	14	15	17	46
7 South Korea	13	10	8	31
8 Japan	9	6	10	25
9 Italy	8	9	10	27
10 France	7	16	18	41

London 2012	G	S	B	Total
1 United States	46	28	29	103
2 China	38	29	21	88
3 Great Britain	29	17	19	65
4 Russia	22	25	32	79
5 South Korea	13	8	7	28
6 Germany	11	19	14	44
7 France	11	11	12	34
8 Australia	8	17	12	37
9 Italy	8	9	11	28
10 Hungary	8	4	6	18

Rank	Rio 2016	G	S	B	Total
1	UNITED STATES	46	37	38	121
2	GREAT BRITAIN	27	23	17	67
3	CHINA	26	18	26	70
4	RUSSIA	19	18	19	56
5	GERMANY	17	10	15	42
6	JAPAN	12	8	21	41
7	FRANCE	10	18	14	42
8	SOUTH KOREA	9	3	9	21
9	ITALY	8	12	8	28
10	AUSTRALIA	8	11	10	29

出所：Rio2016はBBC、アトランタからロンドンまでは全国紙ガーディアン

イギリスはこれまでに見ている決定事項に対して、国内だけでなく海外の英知も躊躇なく取り込み、とにかく成果を出す為のプロセスを巧妙に作るのに長けていると思われる。懸案のEU離脱交渉も、どの様にプロセスを組み立て進捗するか見守りたい。(了)

